

●専門家派遣事業

先進事例の紹介、各種委員会や審議会への助言ならびに政策提言を行い、地域課題に対する複合的な解決策の提示を推進しました。

①コーディネーター派遣

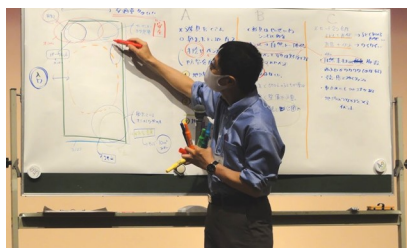
愛地球博記念公園マネジメント会議、名古屋駅西地区まちづくり推進会議部会運営、駒場公園(仮称)検討会プログラム企画業務 など

②研修会講師派遣

岡崎市学区社会教育委員研修会、半田市研修、まちのかたり場 ～こまき未来ビルダーズ～、豊明市協働推進研修資料作成業務、和歌山まちなかプラットフォーム など

③審議会委員派遣

NTT岡崎ビル活用事業者選定審査委員会、豊橋市緑の基本計画 など



▲駒場公園(仮称)の検討会をコーディネートしている様子

事務局

●パンフレット作成

法人設立前から現在(2021年3月)に至るまでの取り組み、りたの専門性について、事例をもとにまとめました(全14ページ)。りぶら市民活動センターまたは各地域交流センターにて配架しておりますのでご希望の方は、窓口のスタッフまでお声掛けください。



●各種認定等

・あいちファミリーフレンドリー企業

2021年3月「あいちファミリーフレンドリー企業」として登録を承認されました。

※ファミリー・フレンドリー企業とは、仕事と育児・介護・地域活動など仕事以外の活動とを両立できる、さまざまな制度と職場環境をもち、ライフステージに応じた多様で柔軟な働き方を従業員が選択できるような取り組みを行う企業です。



・あいち女性輝きカンパニー

2021年5月愛知県より「あいち女性輝きカンパニー」として認証されました。

※あいち女性輝きカンパニーとは

女性の活躍促進に向け、トップの意識表明や採用拡大、職域拡大、育成、管理職登用のほか、ワーク・ライフ・バランスの推進や働きながら育児・介護ができる環境づくりなどの取組を行っている企業等を「あいち女性輝きカンパニー」として愛知県が認証する制度です。



2021年度の展望

わが国では2008年より人口減少時代に突入し、岡崎市の人口は2035年まで増加するという推計がありますが(2019年3月時点、岡崎市)、実際は2019年11月以降、減少傾向に転じています。生産人口(15歳以上65歳未満)は2000年ごろから漸減し、高齢者(65歳以上)の割合は年々増え続け、少子高齢化が深刻になっています。高齢化や人口減少は、額田地域の山間部や東部地域のみならず、中心部でも顕著になってきており、地域活動の担い手不足は市全域で共通の課題です。

また、新型コロナウィルスの影響により社会経済活動の変化が余儀なくされており、地域社会への大小さまざまな影響が予見されます。一方、地域における防災・防犯、高齢者の生活支援、子どもの安全や見守り活動はじめ、多様化する社会的ニーズに応えるには、新たな担い手の発掘や、市民・企業・行政との連携・協働促進により地域活力を高めることが急務であり、そのための中間支援者の役割はますます重要になってきています。2021年度は、これまでりたが培ってきたノウハウを活かして、人口減少により地域運営に課題を抱える中山間地域の関係人口創出プロジェクトに、新たに取り組めます。

まちのミカタ

Litaracy

2021.07vol.110

発行・編集



特定非営利活動法人
岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL(0564)23-2888/FAX(0564)23-2898
http://www.okazaki-lita.com/
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra/岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所/岡崎市各市民センター/シビックセンター/
FMおかざき/杉くんの駄菓子屋/angelshare/cafeくらがり/
松應寺

まちのミカタ

Litaracy

ーりたらしいー

110

2021年7月



おとがワ! 活用実行委員会事務局運営業務



公園愛護運営設立支援等業務



まち育てスクール(むらさきかん)



オンラインミーティング体験セミナー

特集

2020年度のりた

りたは、市民及び市民団体、企業が行う社会貢献活動を促進し、市民・企業・行政が相互に参加や協力するまち育てを支援することで、岡崎市の協働型社会づくりを促進することを目的として掲げています。その目的を実現するため、りたは、市民自治の観点から地域自治と多様な市民活動を支援し、地域社会での連携・協働の推進に積極的な役割を果たすことや、社会の幸福をめざし市民・企業・行政が連携・協働のもとにそれぞれの役割と責任を担う「新しい公共」

の理念を社会に浸透させ、「持続可能な社会」につながるまち育てを進めていくことを使命としています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、予定していた催事の変更・中止を余儀なくされましたが、イベント規模の縮小や内容の変更など、感染拡大防止策を講じたうえで、各種事業を実施しました。

本稿では、2020年に実施した事業の内容や成果、次年度以降の展望についてまとめています。

「りた」が掲げる “3つの主要テーマ” に対する成果

地域の活力を高める



市民活動および地域活動の拠点施設(地域交流センター)の管理運営を通じて、市民自治・地域自治の礎となる地域の担い手を掘り起こし、市民活動団体による公益活動の場づくり、中学生・高校生・大学生の社会参加の場づくり、市民活動や地域活動へのボランティアマッチング(まちびとバンク)を推進しました。

➤➤➤【該当事業】地域交流センター指定管理、まちびとバンク、まち育てスクールほか

地域資源を活かす



河川、公園、道路などの公共空間、そしてそうした場所を積極的に活用する市民、団体、事業者を地域の資源としてとらえ、公共空間のより豊かな使われ方を見だし、その場所ならではの価値として意味付け、それらを具現化し、持続させるための活動と結びつけ、地域の魅力向上に貢献しました。

➤➤➤【該当事業】乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン業務、おとがワ！活用実行委員会事務局運営業務、公園愛護運営設立支援等業務、岡崎カメラ学校(岡崎市シティプロモーション業務2020)、本宿地区景観形成重点地区促進業務

地域の課題解決を支援する



少子高齢化、空き家の増加、防災、子育て支援など、山積する地域課題に対して、地域包括支援センター、社会福祉協議会、学区福祉委員会など既存の担い手の連携や、社会貢献意欲のある個人や団体、ボランティアなどの担い手の発掘およびマッチングを通じて支援しました。

➤➤➤【該当事業】生活支援体制整備事業(第1層)業務、公園緑地整備交付金事業の内公園マネジメント会議運営補助事業、籠田公園・中央緑道周辺地区のエリアマネジメント支援(乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン業務の一部として)

／ 数字で見る「りた」2020 ／

決算額(経常費用)

2億237万円

大規模なまちづくり事業が一段落。一方で、学区を超えた7町連合の組織化による住民・事業者・行政の連携調整プラットフォームが形成され、新たな地域活動の活性化につながりました。また、市外のまちづくり事業にも着手した1年でした。

交流センター年間利用者数合計

約16万人

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う、臨時休館や利用制限があり、昨年度の利用者数より約26万人減少しました。

従業員数

68人

(常勤職員17人・パート等51人)

このほかにアルバイト、プロジェクトスタッフもいます。(2020年度3月末現在)

ボランティア役務提供額(927円/h換算)

191万円

「りた」の事業に関わっていただいたボランティアの延べ活動時間数を賃金換算して可視化。2020年度も非常に多くのボランティアに支えられました。(延べ1,438名2,063.5時間)

「まちびとバンク」ボランティア マッチング人数/募集依頼件数

1,342人/57件

地域交流センターと市民活動センターで1年間に受け付けた「まちびとバンク」のボランティア募集依頼件数とマッチング数です。

●名古屋駅西地区まちづくり推進会議部会運営業務



名古屋駅西地区の土地利用イメージを含む地区のビジョンについて、参加者及び地域等から幅広く意見を聴取し、これらを取りまとめました。また、将来像を実現するため、客引き行為等の対策検討会議や防災勉強会を開催。ビジョン実現のための部会の枠組み(安心安全、にぎわい)が決定しました。

●駒場公園(仮称)プログラム企画業務



名古屋市瑞穂区駒場五丁目地内に整備する駒場公園(仮称)の配置計画、開園後の公園運営・利活用等を検討する検討会(全5回)を監修。実施設計等に地元の意見を反映させることができたほか、公園の管理や活用に関わる市民の意識を醸成することができました。

●生活支援体制整備事業(第1層)業務



「高齢者が安心して暮らせるまちづくり」を目指す拠点施設である地域包括支援センター。そのセンター職員を対象とした会議ファシリテーション、広報支援を行いました。また、ゲームを通じて「終活」への心のハードルを下げることを目指した「(仮称)終活スゴロク」の企画開発を行い、2種類のスゴロク(簡易版と通常版)を完成することができました。(⇒Liratacy109号参照)

●乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン業務



乙川リバーフロント地区内の豊富な公共空間を活用して、公民連携事業を実施することにより、回遊性を高めまちの活性化を図る事業。籠田公園・中央緑道周辺地区のエリアマネジメント支援業務では、前年度までの籠田公園運営検討業務における地縁団体関係者との協議の場を経て、籠田公園・中央緑道周辺町内会による学区を超えた自治会連携のプラットフォーム「7町・広域連合」が生まれました。シンポジウムの企画運営業務では、QURUWA戦略の賛否を巡って関心が高まっていることを踏まえ、これまで情報発信が不足していたQURUWA戦略のねらい、QURUWAのまちの変化(ハード整備のみならず、多様な主体の積極的なまちへの関わりが生まれ、ソフトも充実してきていること)を示し、専門家による俯瞰的な都市経営の解説とQURUWA戦略に対する評価を通じて、QURUWA戦略の有効性を効果的に伝えることができました。

●おとがワ！活用実行委員会事務局運営業務



国が推進する、河川を活用したまちづくりを行う事務局(おとがワ！活用実行委員会)の運営を支援する事業。おとがワ！ンダーランド2020では、24事業者・団体により42のプログラムが計126日間実施されました。5年間の河川活用の社会実験を経て、乙川流域の営み、自然環境、担い手のつながりを活かしたプログラムが定着し、日常的に多くの方々に親しまれる状況を生むことができました。

まち育て推進チーム／市民活動支援チーム

2020年度の事業(抜粋)

●乙川リバーフロント地区まちづくり情報発信業務

乙川リバーフロント地区のまちづくりについて、広く市民に周知するとともに、まちづくりの目的や意義に関する市民の理解を高め、参画を促進することを目的とした事業。今年度は、QURUWAボード及びQURUWA WEBをSNSと連動して運用し、QURUWAエリアの商業者や市民活動団体等がfacebookグループの情報発信を通じて、情報提供ができるよう、仕組みづくりを行いました。

●まち育てコーディネーター養成業務

今年度新たに入社したスタッフに対し、岡崎市内のNPO/市民活動の潮流といたの位置づけや業務の概要等について解説し、中間支援組織の一員として業務に従事できるよう教育を実施しました。一方、管理職者向け研修では、今年度導入したOffice365の活用研修(講師:オアシス)や岡崎市の職員出前講座を活用した個人情報保護と著作権に関する研修(講師:岡崎市総務文書課)を行いました。

●未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト

岡崎市は水道事業関連企業と連携し、乙川の水道水源林の育成、管理やその大切さを伝える啓発活動を行っています。本事業では、協賛企業の職員を対象とした、間伐体験イベントの企画・運営コーディネートを行いました。水道事業に関わっている協賛企業の社員に、水源林で抱えている課題を共有することで、水源涵養の必要性を実感してもらう機会を創出しました。

●本宿地区景観形成重点地区促進業務

地元住民が自律的に、良好な景観に配慮したまちなみを保全、あるいは修復・創造していけるよう、幅広い世代を巻き込みながら、将来を担う世代への景観に対する意識づけを行うことを目的とした事業。本宿小学校5年生の児童を対象に、ワークショップを実施しました。地域活動に携わる大人と子どもたち(本宿小学校児童)が直接交流し、地域に対する思いや活動に触れることで、子どもたちのまちに対する関心を高め、地域の担い手との関係を構築することができました。

●岡崎カメラ学校 (岡崎市シティプロモーション 業務2020)



岡崎市内の魅力を発信するチーム作りを目指す「岡崎カメラ」の企画・運営事業。3か年の最終年度となる2020年度は、まち歩きや取材を通して、見過ごしがちな岡崎の魅力を発信する「ローカルフォトツアー」の企画と、自立的なチーム運営に向けた支援を行いました。



●公園愛護運営 設立支援等業務

岡崎市が進める公園愛護会組織「公園愛護運営会」の設立支援を行う事業。今年度は、5つの地区を対象に、愛護運営会の設立の可能性を検討しました。その中で、2つの愛護運営会が設立されました(伊賀公園と北斗台)。

北部地域交流センター・なごみん



2020年度の事業(抜粋)

●なごみん15周年啓発事業

なごみんの周年記念イベント。今年度は、センターの事業や機能の紹介、15年に渡る実績などをポスターにまとめ、センターの取り組みを来館者に向けてPRしました。



●なごみんカレッジ

岡崎聾学校の生徒や市民活動団体を講師に迎え、手話の体験会やオンライン形式でのマジック講座を開催。団体の活動を市民に発信する機会を提供しました。



●なごみん横丁

子どもたちが自ら考え、まちをつくることで自主性や創造性を育む事業。今年度は、過去の参加者を取材し、開催を通して得られた変化や成長を紹介するための展示会を開催しました。



●地域活動サミットin北部

コロナ禍での市民活動団体の活動を紹介する展示会。オンラインツールを活用した団体に、活用後の感想やメリット、留意点などをヒアリングし、冊子にまとめ紹介しました。



地域支援に関する成果事例

「歴史的な道を後世へと受け継いでいくために、地元住民を中心に活動してきたが、高齢化に伴い活動を続けることが厳しい」という住民からの相談に対し、「清掃活動を通じて、地元の人と関わりながら社会復帰を目指したい」団体を既存のシステム(まちびと)を活用してマッチング。高齢化に伴う、担い手不足という地域の課題を解決できました。

南部地域交流センター・よりなん



2020年度の事業(抜粋)

●よりなん感謝祭

市民活動団体と地域住民の交流を深めるイベント。今年度は、団体の活動を紹介する動画の映写やギャラリーでの作品展示・物品販売などを行いました。



●生きがいがづくり促進事業

シルバー世代の方々に生きがいとなるものを発見してもらうための体験講座。約10講座が実施され、税理士による老後のお金に関する講座などが好評でした。



●防災講習会

防災関連団体(2団体)と協働し、「防災について自主的に学べる機会」を創出。参加者の防災に対する知識や意識を高めるとともに地域防災への意識向上につなげました。



●情報誌「よりなん」発行

地域での旬な話題や市民活動団体の活動紹介、よりなんのイベント情報などを掲載。活動紹介として取り上げた団体の、会員増加に寄与しました。※よりなんのホームページにて公開



地域支援に関する成果事例

地域の老人会より、講座を企画する中で、講師に関する相談があり、よりなんで開催している「生きがいがづくり講座」で和歌の講師を務めた方を紹介。マッチングが成立し、講座開催に向けて検討中となっています。

西部地域交流センター・やはぎかん



2020年度の事業(抜粋)



●**やはぎかん 春まつり**
市民活動団体の活動を市民へ発信するイベント。今年度は、参加団体が作成したPRチラシ(活動目的や内容などを記載)を館内に展示することで、団体の活動を来館者へPRしました。



●**防災のキッカケとこれから**
防災意識の向上を目的とした企画。過去に国内で発生した災害の被災状況が分かる写真や身近なもので備える防災グッズなどを紹介する展示会を行いました。



●**花のとう協賛イベント**
地域の伝統行事を通じて、まちへの愛着を育むことを目指した事業。花のとうの由来やイベントの歴史を来館者へ伝える展示会を開催し、伝統行事への関心を高めました。



●**まち育てスクール**
矢作地域の魅力発信事業。過去に開催したまち歩きコースの紹介と、地域の魅力を次世代につなげる活動をしている方を取材し、インタビューの内容をまとめ、館内で展示しました。

地域支援に関する成果事例

矢作東学区の子ども食堂を運営している団体の方より、ボランティア募集に関する相談を受けました。まちびとバンクでの募集に加え、学校等へのアプローチ方法のアドバイスをしたことで、延べ116名のボランティアが子ども食堂で活躍するという結果を生むことができました。

東部地域交流センター・むらさきかん



2020年度の事業(抜粋)



●**むらさきかんまつり2020**
東部地域やむらさきかんを利用する個人・団体(19団体)の成果発表の場。写真、絵画、造形作品などを募集し、東部地域の魅力を発信する展示会を開催しました。



●**生きがい発見！講座**
講座を通じて、講師・参加者の双方に、生きがいとなるものを見つけてもらう企画。今回は、絵手紙の会による体験講座を実施しました。また、多世代が交流できる場にもなりました。



●**まち育てスクール**
東部地域の魅力を発見する企画。東海中学校の生徒と連携し、地域の魅力的な場所や風景を撮影し、その写真にタイトルとコメントをつけてもらい、1冊の冊子を作成しました。

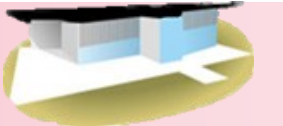


●**食育教室**
藤川まちづくり協議会、愛知学泉短期大学と連携。過去に実施した「むらさき麦を使った料理教室」のレシピを参考に、レシピ集を作成し、むらさきかんや市役所などで配布しました。

地域支援に関する成果

まち育てスクールの企画で、東海中学校のボランティアとともに自分の視点で地域の魅力を発信する「地域の名刺東海中学区AtoZ」を作成し、4学区の総代会の会長などに向けた発表会を開催しました。中学生へは、ボランティアの機会を提供できたことに加え、世代を超えた住民同士の交流の場を創出することができました。

地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里



2020年度の事業(抜粋)



●**ゆきファミリーパーク**
子育て支援を行う市民活動団体等(11団体)と協働し、親子で出来る着付け体験や育児雑誌の販売が行われました。イベントを通じて、団体の活動を市民に知ってもらう機会となりました。



●**バンザイみんなでアート**
六ツ美悠紀斎田の稲刈りの日に合わせたイベント。市民、市民活動団体、六ツ美中学校美術部の生徒と共同で、ガラスの壁面を使った1つの作品を制作しました。



●**ゆき防災講座**
地域防災への取り組み促進を目的に、学区総代会や防災活動に取り組む市民活動団体等と連携し、「巨大地震」をテーマとした講演や段ボールを使用したベッドの組み立てなどの5つの体験会を実施しました。

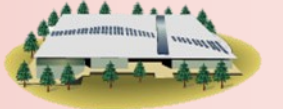


●**まち育てスクール**
六ツ美地域の魅力を発掘・発信する企画。六ツ美南部学区のマップ作りを推進する団体と連携し、「子どもが使う地域の店舗」や「こども119番の家」などの情報が掲載されたマップが完成しました。

地域支援に関する成果事例

六ツ美南部小学校同窓会や六ツ美南部小学校PTAに所属するメンバーを中心に構成された、有志の団体m.a.p(まちあるきプロジェクト)が行う、地域の魅力の発掘・発信をするためのマップ作成事業の企画・推進をサポート。マップはGoogle mapを活用した「デジタルマップ」として完成し、今後のイベントで活用されることになりました。

りぶら市民活動センター



2020年度の事業(抜粋)



●**まちびとバンク**
岡崎市内のボランティアを促進するため、ボランティアをしたい人と必要としている団体に対して293人32団体のマッチングを行いました。(6センター全体では1,342人)



●**オンラインミーティング体験セミナー**
市民活動団体にオンラインツールを取り入れてもらうことを目指した企画。多様なツールの特徴や注意点などを紹介し、実際にオンラインでのミーティングも体験してもらいました。



●**もののものバンク**
市民の方より提供された不用品と、それらを必要としている市民活動団体へ届けるシステムの運用。69件のマッチングが成立し、団体が抱えるモノ不足解消に努めました。



●**広報講座**
広報に課題を感じている団体を対象にした講座。各団体の広報活動(広報誌、SNSなど)を棚卸し、見直すことで今後の効果的な広報活動を検討する機会を創出しました。



●**まちびとステージ(活躍場所募集)**
岡崎市のボランティアをより活発にするため、2019年より開始した「まちびとステージ」。この取り組みは、「特技を発揮できる場所や機会を求めている人(活躍希望者)」と「その場所を提供できる団体(受入団体)」をマッチングするシステムです。今年度は「社会的孤立を課題としており、地域の方とふれあひながら社会貢献活動をしたい団体(若手男性4名程度)」と「高齢化で林道を整備することが困難となっている地域住民」のマッチングが成立。地域の課題解決にも貢献することができました。